

## C-61 ピンタック加工における布地の収縮現象について

戸板女短大 ○香取智恵子 遠藤悦子

目的 ピンタック加工をして裁断に入る際、ピンタック加工による布地の寸法の変化は、極めて大きいことが認識されている。その変化は、タック量より設定した加工後の収縮寸法が、殆どの場合当初の計算より大きくマイナスすることと、アイロンセット後、1時間放置して更に寸法が収縮することの2点である。この変化は、タック量に対して13%~100%に及ぶもので、又アイロンセット後の1時間放置後の収縮は、全く変化しない種類と、最大に及ぶ収縮を起す布地の種類のあることが明らかとなった。

方法 条件の異なる布地を中38.5cm、丈30cmの大きさにたて、よこ各1枚ずつ裁断して、ピンタックのつまみ分は最少限度に、間隔は1.5cmとして20本のピンタックを行った。これをアイロンセットし、その直後と1時間放置後に巾を測定し、1本のタック量から設定された折り込み量との関係、および物理量の関係について検討した。

結果 これらはピンタック加工による強度の衰形をした際の折り曲げ部分の回復力により、ピンタック加工のピッチ毎に波打つ現象で収縮するのが原因と考えられる。然しながらその傾向は、布地の基本的物理特性、特に関係があると考えられる防し巾度とも顕著な相関は見られず、ピンタック加工の際の特殊な折り曲げと、縫糸の緊迫力とにより発生するストレスへの布地の抵抗力と見られ、その傾向は、一般的な物理特性とは別に獨立して評価、把握されねばならない。